



<右から2人目が筆者>

タイ バンコクでの国際 ワークショップを通じて

<国際建築ワークショップ>
明治大学理工学研究科建築学専攻
国際プロフェSSIONALコース修士1年
茂木裕介

2016年1月、タイ・チュラロンコン大学 (INDA)、シンガポール国立大学 (NUS)、明治大学3大学での合同国際ワークショップが開催されました。今回のワークショップは建築学専攻の授業の一環として行われ、国際プロフェSSIONALコース (I-AUD) 12名 (内、日本人4名) が参加しました。

今回私たちがワークショップを行ったのは、タイ国有鉄道の主要幹線4路線の起点駅として位置づけられているファランポーン駅とその周辺についてであった。約100年もの歴史を持ち、バンコクにおける主要なターミナルであるファランポーン駅が近い将来その機能を他の駅へ移動する計画が進んでいる。そこで歴史ある駅舎を保存しつつ、線路跡地をどのように開発していくかがテーマになった。

私たちのグループはI-AUDから2人、INDAから2人、NUSから1人の計5名のグループでした。異なるバックグラウンドを持つ私たちは当初少しぎこちない感じがありましたが、やはり建築を学ぶ学生として共通する部分もあり、すぐに皆打ち解け合うことができました。

各々が最初に感じたことを発表し、似通った意見同士のグループで分けたため話し合いがスムーズに進むことがあれば、教授陣からの指摘に対して皆で頭を悩ませたりしながら、課題となっている地域について現地の人の立場に立ったつもりでデザインを進めていきました。

国際ワークショップは異なる視点を持つ学生同士が互いに意見をぶつかけたり、認めあったりして1つのものを生み出そうとする課程がとても面白いものだと思います。共通の言語は英語であり、英語を母国語としない者が大半なのでニュアンスの違いなども感じる場面もあったが、人とコミュニケーションをとるといふことの大切さと面白さを改めて実感する体験だったと思う。海外でこのような経験を重ねていくことで近い将来に必ず役に立つことだと思うので、今後も積極的に国際的な活動を続けていきたいと思う。



<最終発表の様子 (撮影: 明治大学)>

最後に、このような活動を支えていただいたアセアンセンターのスタッフの方々に感謝申し上げます。